

文化

ジャズin有漢

「日本のサッチモ」こと外山喜雄さんを招いて開催する24回目の酒蔵コンサートです。

日時 4月15日(日)午後1時30分～(開場午後0時30分)

場所 芳烈酒造「酒蔵」

出演 外山喜雄とデキシシーセイנט

入場料 前売り4000円/当日4500円

関芳烈酒造(株) ☎(57)20003

スポーツ

シャルムスタジアムにサッカー備品を購入しました

シャルムスタジアム(神原スポーツ公園多目的グラウンド)のサッカー備品を購入しました。

本備品の購入は、独立行政法人日本スポーツ振興センタースポーツ振興くじ助成金を利用しています。



関スポーツ振興課 ☎(21)0425

岩戸開きin用瀬祭

ボルダリング競技交流会

日時 4月15日(日)午前10時～午後3時(受け付け午前9時～9時30分)

場所 用瀬獄フリークライミング広場

カテゴリー ①キッズクラス(小学3年生まで)②チャレンジクラス(小学4～6年生)③オープンクラス(中学生以上一般)

参加費 1000円(昼食券・保険料を含む/当日集金)

申し込み 4月10日(火)までに申込書を郵送、ファクスなどで杉田商店へ送ってください。定員(70人)になり次第募集を終了します。

関杉田商店 ☎(45)3106



※広報たかはし平成29年12月号23ページの写真に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

「高梁偉人列伝⑨明治の思想家 網島梁川第3回」挿入写真(上)

「明治36年(この網島梁川)」

キラキラきらめく ⑱

江草 未来さん

えぐさ みく 24歳 備中町平川

沖縄県で生まれ育った未来さんに小さい頃のことを聞くと、「パイナップル畑で遊んでいました。小・中学・高校ではバレーボールをしていたので元気で活発な子でした」と笑顔。

中学・高校での職場体験をきっかけに、真庭市にある酪農大学校へ入学。卒業後は沖縄県へ戻りましたが、大学時代知り合った夫・真一さんとのお付き合いを機に高梁市へ。現在は、備中町平川で真一さんの家族と同居しながら家業を手伝っています。

「平川の人は皆さん温かく話しかけてくれて嬉しいです」と話す未来さん。四季を感じられるところとピオーネがおいしい高梁が好きとのこと。

「5月に出産予定なので、元気な赤ちゃんを産みたいと思います。そして将来は、家族で仲良く暮らしながら沖縄にいる両親へ親孝行をしたいです」と幸せそうな表情で語ってくれました。

在宅医療・介護連携推進事業通信 第38回

地域包括ケアシステム検討委員会 ～みんなで支える地域づくり～

おがさき ゆきとも 准教授(吉備国際大学社会福祉学科)

地域包括ケアシステム検討委員会は、「支え合う地域生活」の実現へ向けて、地域福祉組織の代表者(保健・福祉・町内会など)、行政、市と見守り協定を締結している企業を構成員に、現在の取り組み状況の確認と課題の発見、その解決へ向けての話し合いなどを行っている団体です。

今回の委員会では、オブザーバーの西村洋己さん(県社会福祉協議会)のアドバイスのもと、地区社会福祉協議会(以下地区社協)の現状について確認をしました。

地区社協とは、地域の福祉課題に取り組む住民主体の団体で、高梁市では14地区に設置されており、他の市町村に比べると充実しています。しかし、高齢化が進んで担い手が少なくなっているにも関わらず、取り組む福祉課題は多くなるなど、どの地区でも運営が厳しい状況にあります。西村さんからは、「厳しい状況を漠然と捉えるのではなく、問題を一つずつ解きほぐしていきましょう」という助言があり、まず高梁市が目指す理想的な地域生活を明らかにし、できることは何か、そのためには何が必要かについて意見を出し合いました。現在、喫緊の課題である「担い手不足」は、「同じ人に役割が集中している。障がいがある人も新たな担い手となるのではないか」といった意見や、「担い手が少ないのであれば、町内やさまざまな単位で実施している行事や事業の見直しを行い、地区ごとの実情に合わせた取り組みを確認するのが大事では」などの意見が出ました。

これまで、お互いが支え合うことで豊かな地域生活が実現されてきましたが、人口減少社会の今、同じように続けていくことが難しいのは間違いありません。これからは、時代に合わせて「現代の高梁版お互い様」を実現していくことが重要であると理解できた委員会でした。



関医療連携課 ☎(21)0304

市長室から 一こんにちは

●平成29年度の高梁市の人口動態ですが、自然減少が約380人、社会減少が約320人でした。5年前と比べて自然減少は横ばいでしたが、社会減少は大きくなっています。さまざまな要因がありますが、一つは吉備国際大学の入学者数の減少が考えられます。これから地方大学の特性を生かし、これまで以上に地域との連携を図った取り組みが求められます。学生のまちとして、どのような形で学生諸君と交流などを深めるか、大学の持つ(知)の力をいかに地域に取り込んでいくか、市民の皆さんの力が必要です。ご提案や活用をお願いします。

●障がいがある方々の支援にさまざまな形で取り組んでいます。ろう者の皆さんに向けて、手話を言語として認め、少しでもバリアーのない社会づくりを進めることもその一つです。また、最近注目を集めている就労継続支援A型事業所が市内にもあります。それぞれ懸命に事業に取り組まれており、新しい事業所も開設されようとしています。市としてもしっかりと連携を取りながら、事業所の運営が進むよう努めていきます。市内にはさまざま

まな障がいがある人がおられます。どの障がいがあっても、いかにして地域生活の中で暮らしていけるか、特に入院されている方がいかに早く地域生活に移行し、皆さんとコミュニケーションをとっていきけるかが重要です。それには市民の皆さんの正しい理解が必要で、障がいがある方がそのことを理解することも大切だと思います。市では、全ての障がい者が地域で生活できるまちづくりを進めていこうと考えています。

●先日、亀山市に出張した帰りに、関西本線に乗りしました。加太越を見ようと運転席の横に立ち、前を眺めていました。途中の駅で、カメラを持った初老のご婦人が2人乗車され、いきなり私の前の窓ガラスのところに立ち、100枚あまりの写真を撮り始めました。他の乗客の方もいたのですが、全く意に介していないようでした。やはり、いくら愛好者と言えどもマナーをしっかり守ることが大切であると改めて感じました。

近藤隆則